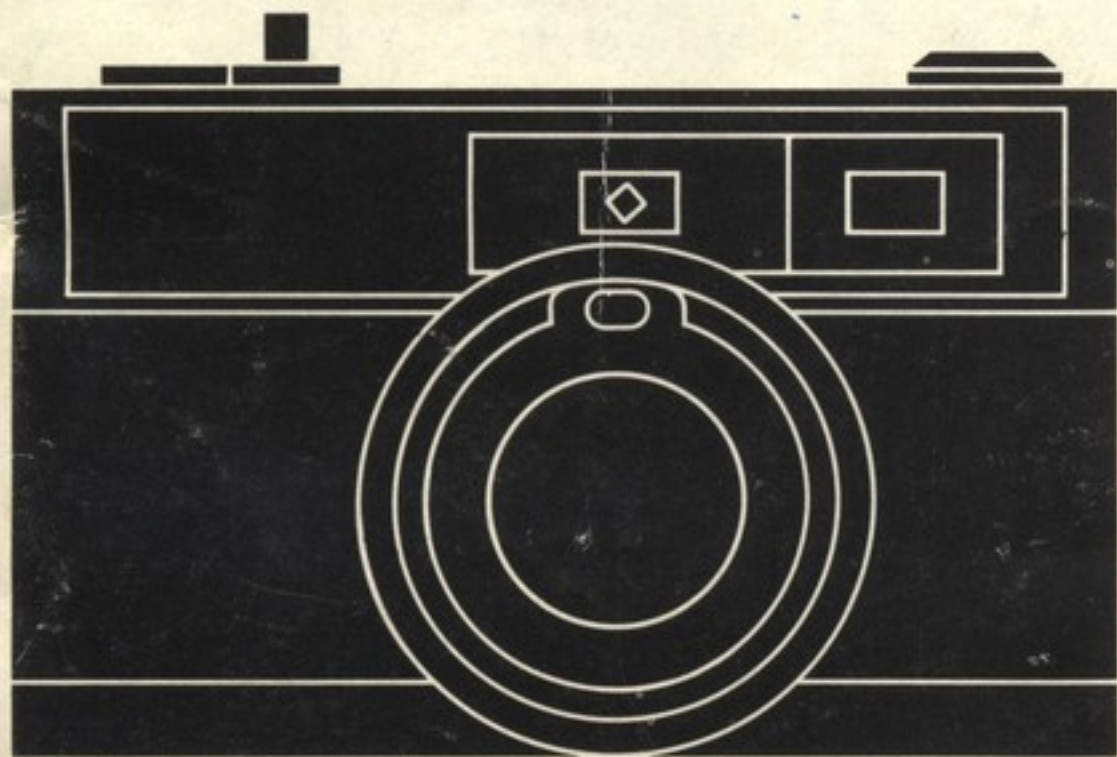


MINOLTA HI-MATIC 11



使用説明書



お買上げありがとうございます

ハイマチック-11は2方式のE E、即ちプログラムE E・速度選択E Eが選択使用でき、更にフラッシュを自動化したフラッシュマチック機構も備えた、ハイメカニズムの高級E Eカメラです

鷹の眼の鋭さに象徴されるシャープなロッドコールレンズの採用と、世界最初の新露出方式CLCによって、より適正な露出がえられることは勿論、SLS機構によるフィルムそうてんの簡易化をはじめ、いままでのE Eカメラにない優れた性能を備えた完ぺきなE Eカメラです。使用されればきっとご満足いただけることと思います

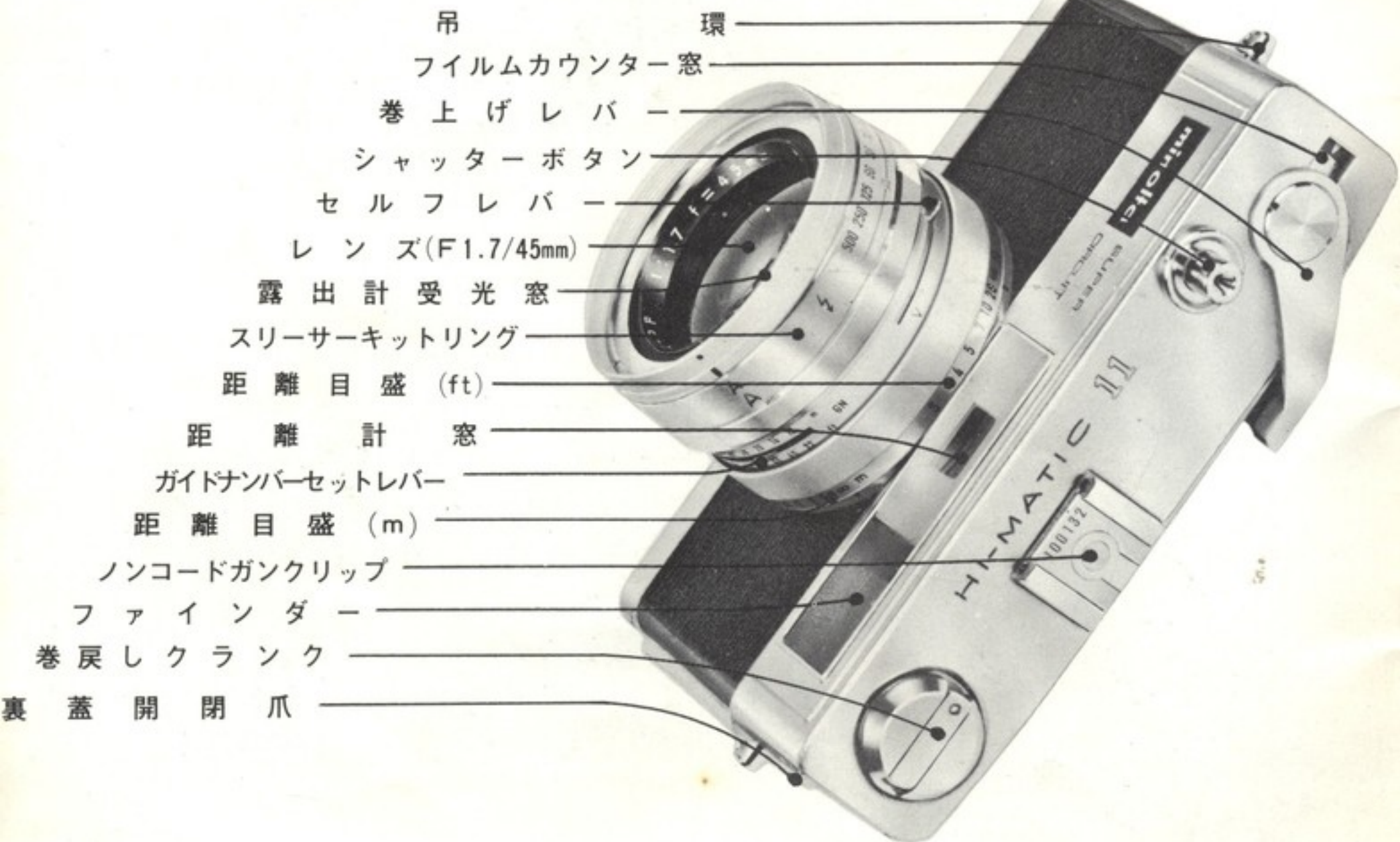
ご使用いただく前、この使用説明書をよくお読みになってカメラの特長を十分ご活用ください

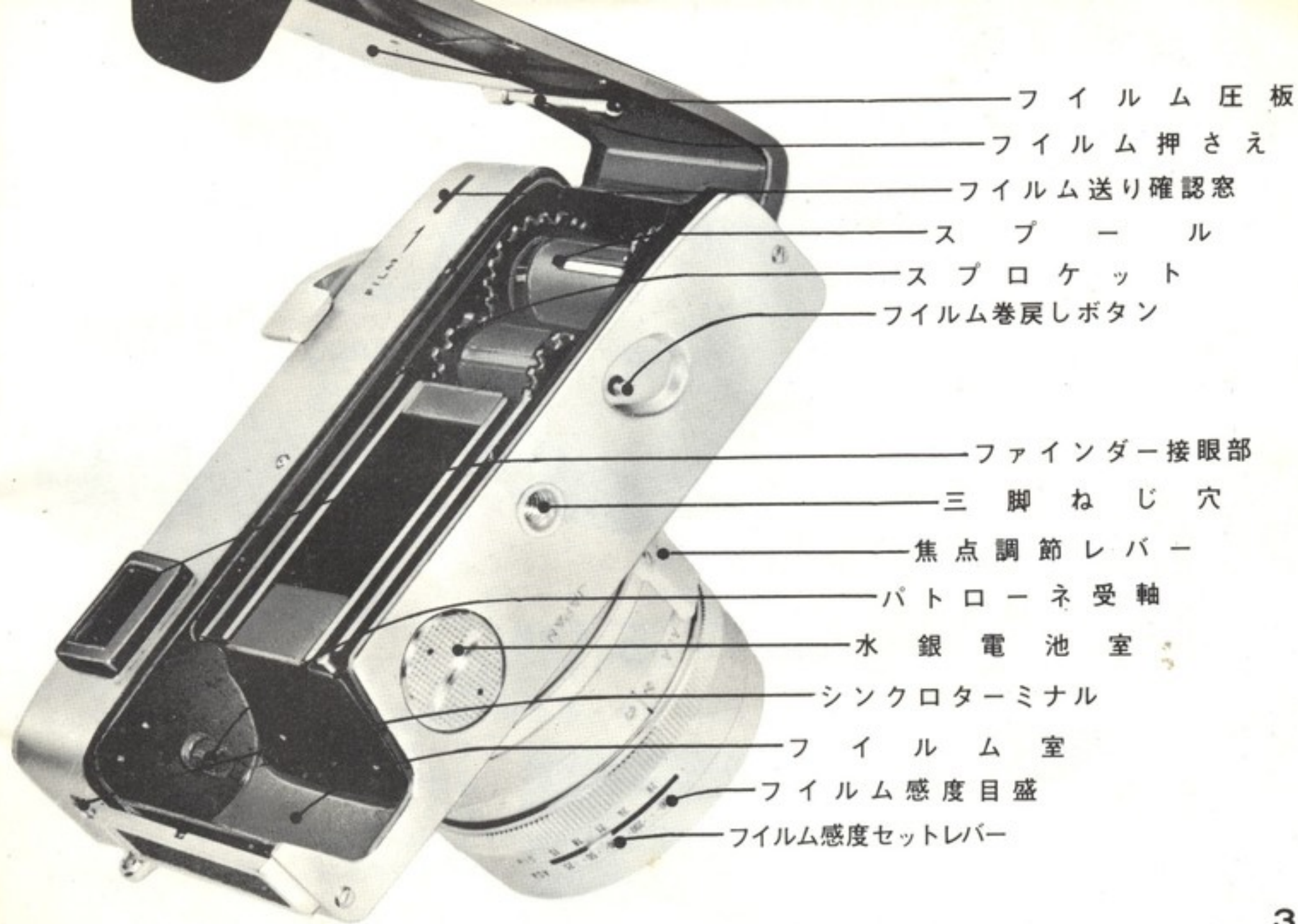
目次

各部の名称	2
主な特長	4
主な性能	5
撮影前に水銀電池を入れてください	6
バッテリーチェックについて	7
こんなに簡単に写せます	8
フィルムの入れ方	10
撮影の方法	
(1) プログラムE Eのとき	14
(2) 速度選択E Eのとき	16
(3) フラッシュ撮影のとき	17
カメラの構え方	20
ファインダーの見方	22
ピントの合わせ方	23
被写界深度について	24
セルフタイマーの使い方	26
フィルムの取出し	27
プログラムシャッターと速度優先E E	28
カメラの保存と手入れ	29
撮影の範囲をより広げるアクセサリ	30



各部の名称 ●





主な特長 ●

1 プログラムEE・速度選択EE とフラッシュマチック機構を備 えています

EE方式はプログラム・速度選
択どちらでも使用目的に応じて
使い分けできます。またフラッ
シュ撮影も便利なフラッシュマ
チック機構も備えています。し
かもこれらの切換操作がワンタ
ッチでできます。

2 シャープなロックールレンズ付

“鷹の眼の鋭さ”に象徴されるシャープなロッ
コールレンズを採用。白黒はもちろん、カラー
に強いとプロの間でも定評があるレンズで
す。

3 ミノルタ独自のCLCとLSE 受光窓

ズバリ適正をとらせる新露出方式CLC
と、レンズに入っている光を確実に捕える
LSE (Lens Side Eye) 受光部のコン
ピが測定精度を最大限に高めました



4 ピントが合わせやすい明る いファインダー

距離計のハーフミラーに特
殊コーティングを施しまし
たのでファインダーが明る
く、ピント合わせもすばや
くできます。



5 その他

- EEでセルフが使用できます
- 電池の性能をチェックするバッテリーチェ
ッカーがついています (一操作)
- フィルムそうてんが容易な
SLS方式です
- ファインダーよりシャッター
速度が直読できます等

主な性能 ●

カメラタイプ	J 135フィルム使用のプログラム・速度選択両用の35mm E Eカメラ
画面サイズ	24×36mm
レンズ	ロッコール P F F1.7/45mm 5群6枚
シャッター	セイコー A L A (F M機構内蔵) プログラム E E のとき E V 6.5~17 (F 1.7, $\frac{1}{30}$ ~ F 22, $\frac{1}{250}$) 速度選択 E E のとき $\frac{1}{8}$ ~ $\frac{1}{500}$ E V 4.5~18 (F 1.7, $\frac{1}{8}$ ~ F 22, $\frac{1}{500}$) セルフタイマー内蔵
シンクロ接点	X接点 ($\frac{1}{30}$ でM球、MF球使用可)
露出計	(CdSを用いたプログラム・速度優先 E E方式 (CLC方式))
測定範囲	プログラム E E のとき E V 6.5~17 (全ASA に対して) 速度選択 E E のとき E V 4.5~18 (全ASA に対して)
使用フィルム感度	ASA 25~500
ピント合わせ	一眼二重像合致式
最短撮影距離	0.9 m (3 ft)
ファインダー	採光式ブライトフレームパララックス自動補正、絞り値、E E警告シグナル付、バッテリーチェック兼 F M連動マーク付
フラッシュ撮影	F M (フラッシュ・マチック) 機構、F Mガイドナンバー10~80 (m)
フィルム巻上げ	レバー式 (小刻み巻上げ可能)
カウンター	順算式 自動復元
その他	CLC露出計 フィルム巻戻しは押しボタン式で、ボタン自動復元 バッテリーチェッカー、ノンコートガンクリップ付、視度調節アタッチメント取付可
アクセサリ	フード 57mm (かぶせ式) フィルターねじ径55mm (UV, Y-48, GO, O-54, R-59, 1 A, 85, 80 B)
大きさ・重量	140×82×74mm 740 g

撮影前に水銀電池を入れてください●

- 1 水銀電池蓋の溝（みぞ）に銅貨をはめるか、あるいは親指を当て、反時計方向に回すと、底蓋がはずれます
- 2 水銀電池の（+）側を上にして電池室に入れ、蓋をしっかりと閉めます

- 使用電池はJIS記号H-D型です。電池を入れるとき、電池の極（+）と（-）を間違えないようにしてください
- 長期間（1ヶ月以上）カメラを使用しないときは、水銀電池を取り出し、乾燥した場所にしまっておいてください
- 水銀電池に手をふれるとき、汗や脂がつかないようにしてください
- 水銀電池の寿命は約1年ですがお使いになるときはバッテリーチェッカーでテストしてください
- 水銀電池の平均寿命は約1年です。もしカメラ内に水銀電池を入れておく場合はスリーサーキットリングをAまたは-A位置にしておき、更に太陽の直射光を長時間受けやすいときはレンズキャップをご利用ください

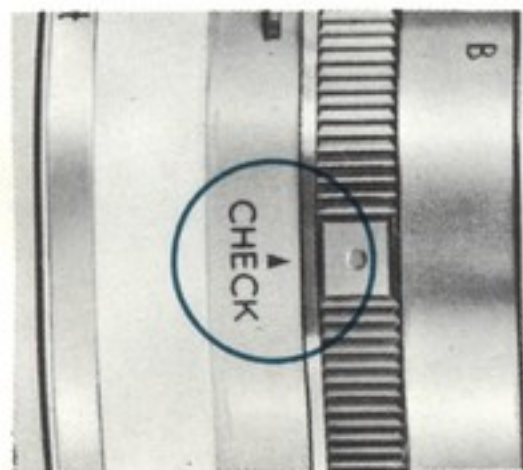


バッテリーチェックについて ●

水銀電池の性能を調べるのがバッテリーチェッカーです。電池を入れたときとか、しばらく使わなかったときは、バッテリーチェッカーで電池の性能をテストしてください

チェックのしかた

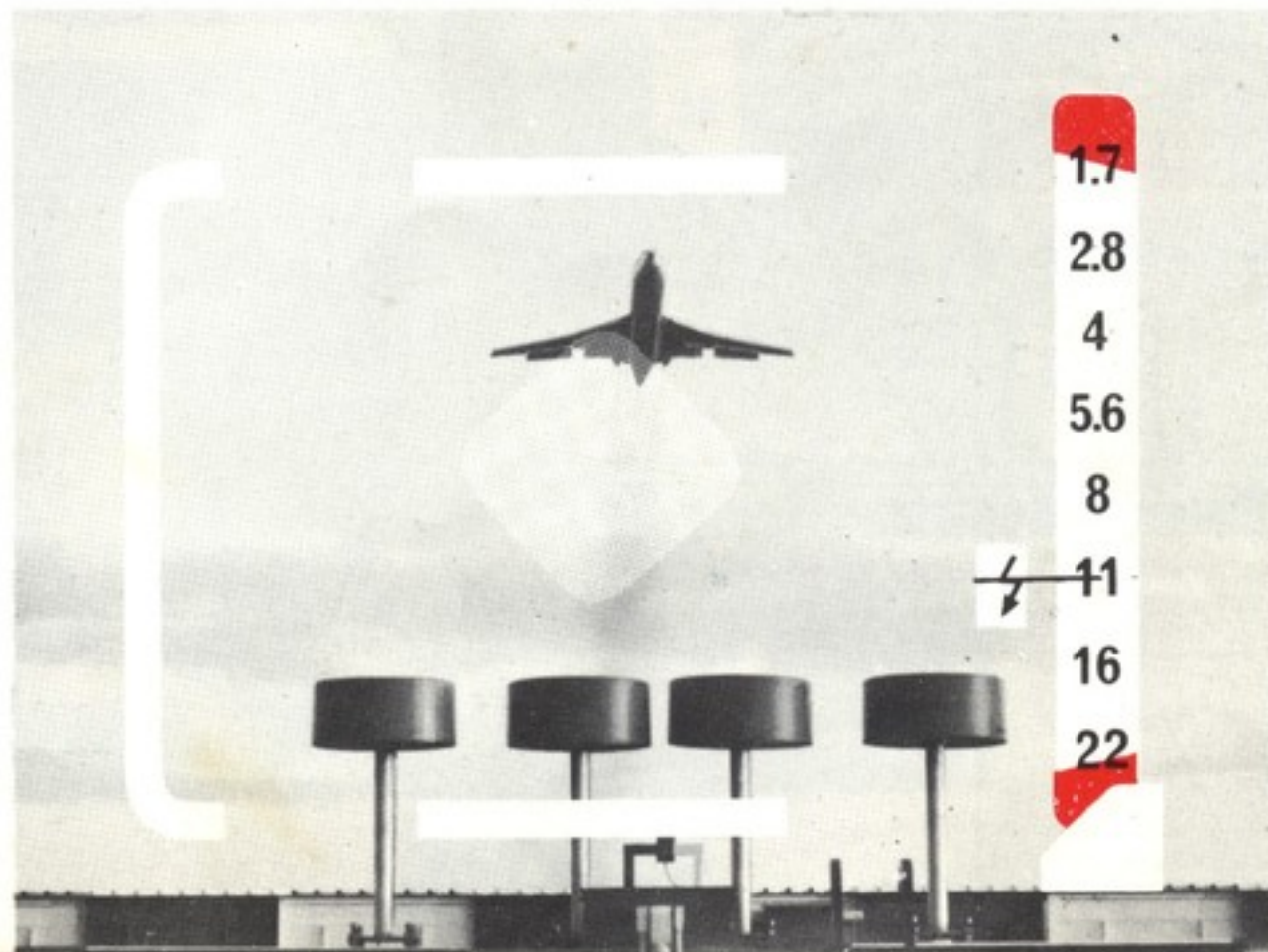
- 1 スリーサーキットリングを回し、指標をCHECKに合わせます



- 2 ファインダーをのぞき、指針がバッテリーチェックマークにあれば、電池の性能が十分です

〈注意〉

バッテリーチェックは電池の消耗がはげしいので、確認後すぐ指標をチェックマークからはずし、 $\frac{A}{A}$ または-A-にしてください

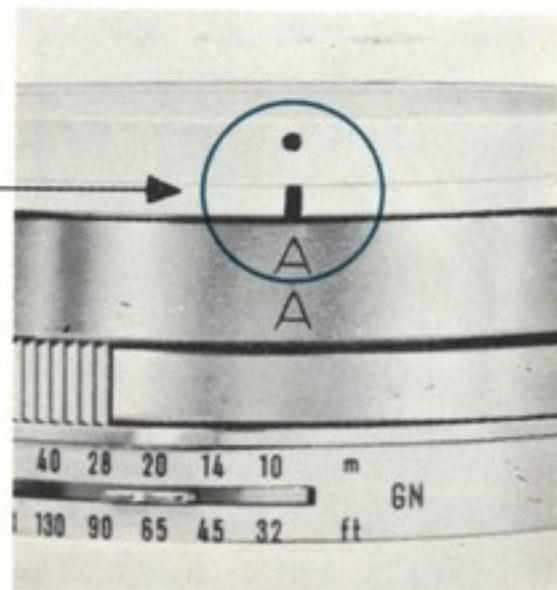
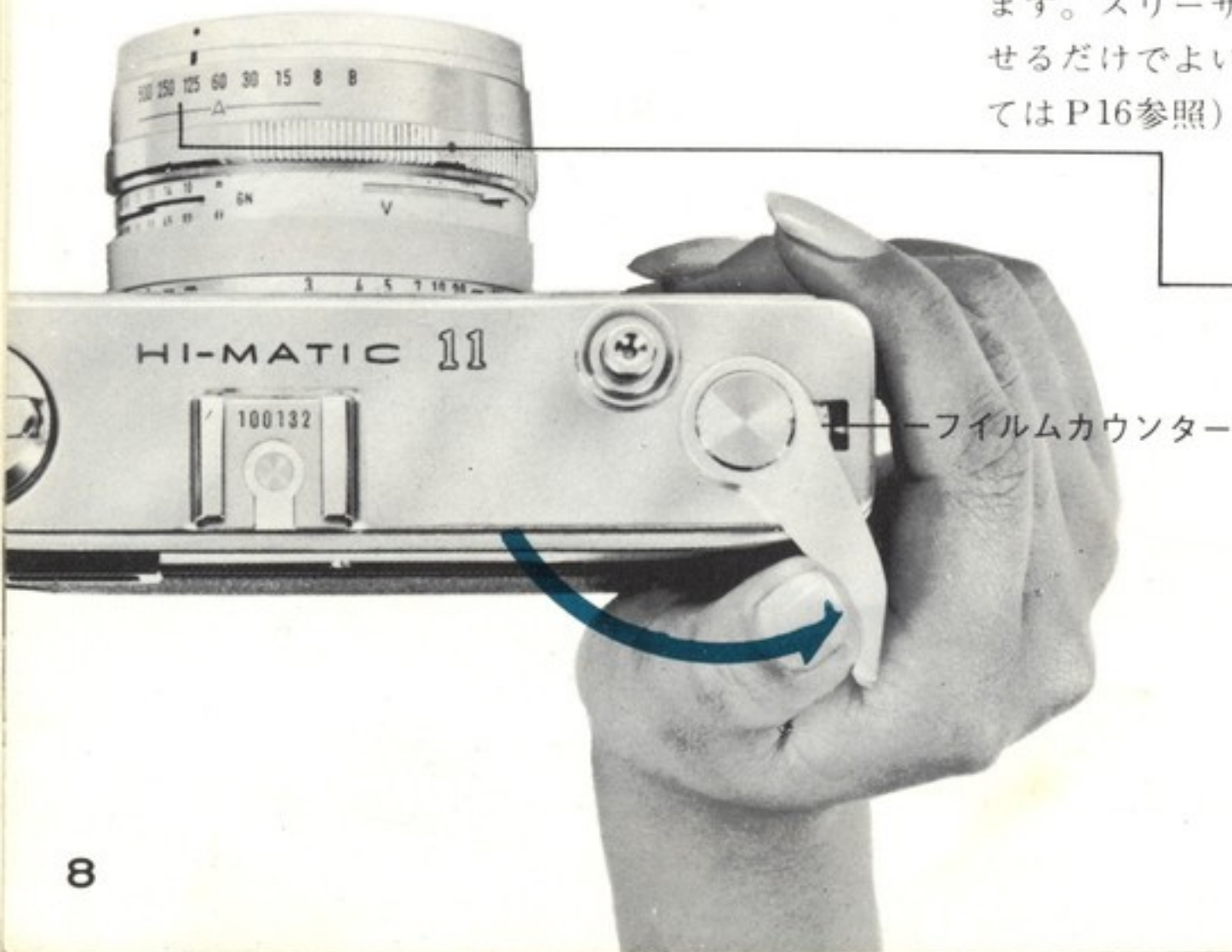


こんなに簡単に写せます ●

- 1 フィルムを入れ、フィルムカウンターに
①を出します

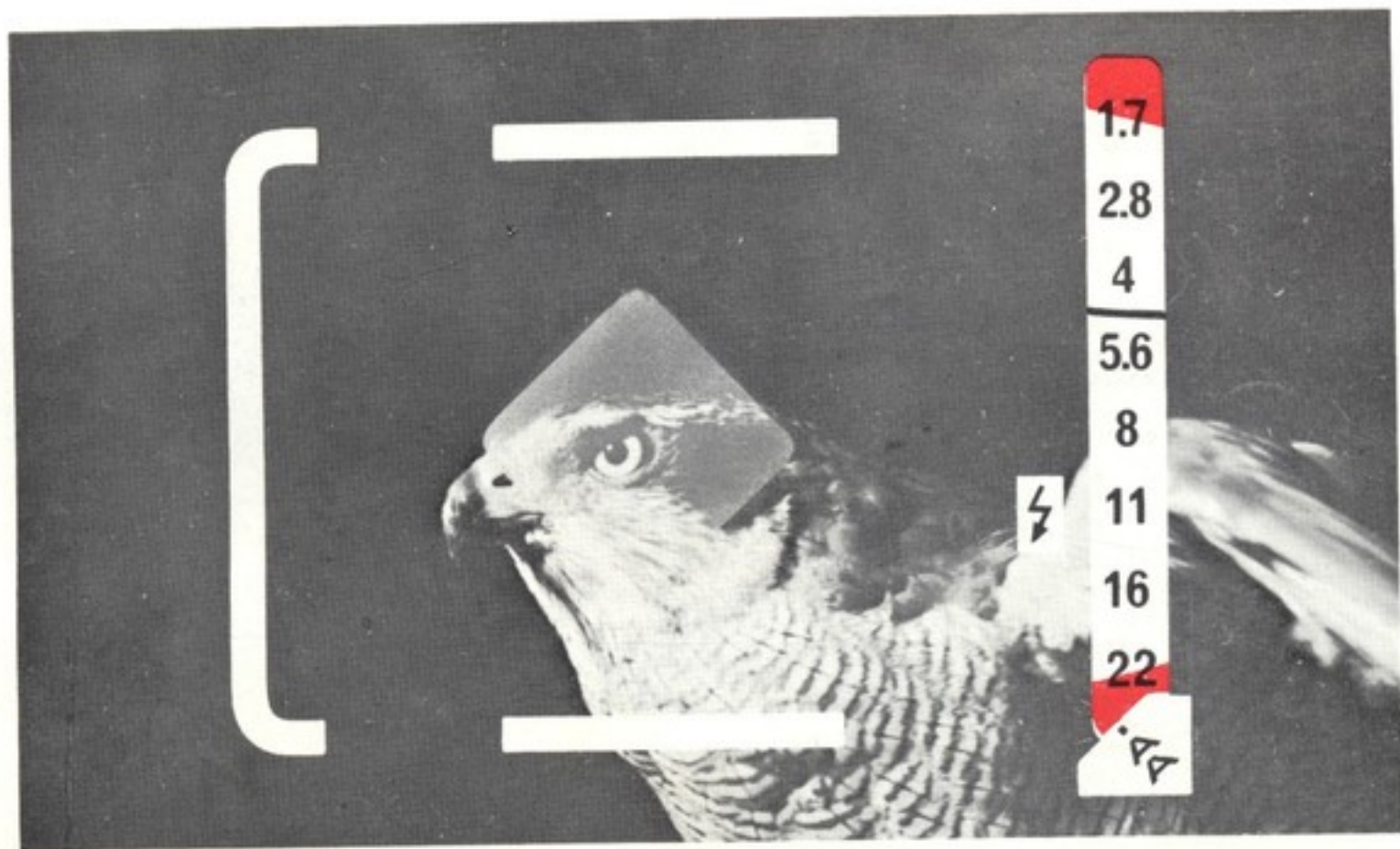
- 2 フィルム感度を合わせ、プログラムEE
または速度選択EEいずれか撮影目的に
応じ決めます

(初心者の方はプログラムEEをおすすめ
します。スリーサーキットリングの指標を合
わせるだけでよいのです。速度選択EEにつ
いてはP16参照)



- 3** ピントを合わせます
(ファインダー内の指針が、上下のE E
警告マークに入っていないときはE Eが
働き適正露出がえられます)

- 4** 構図を決め、シャッターを切ります



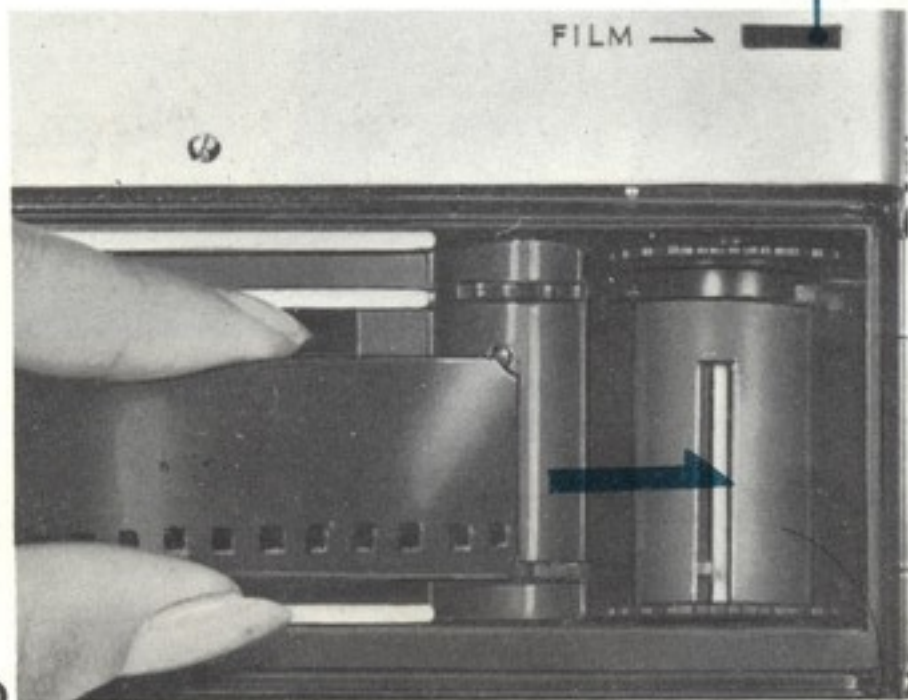
フィルムの入れ方 ●

ハイマチック-11は

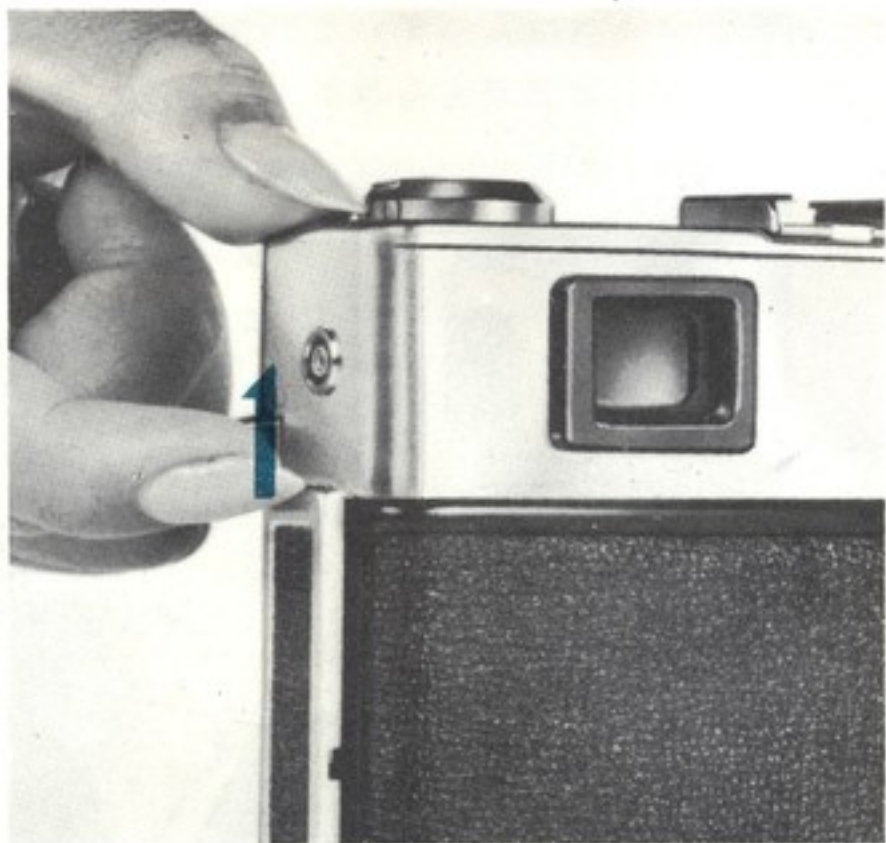
SLS機構を採用しています

SLS機構によるフィルム装てん法で、フィルムが容易に巻き込めるようになりました。つまり、スプールに4つの溝がついて、フィルムの差込みが容易になると同時に、フィルム送りの確認窓がついて、フィルム装てんの有無とフィルム送りが確認でき、カラ写しの心配がなくなりました

フィルム送り確認窓

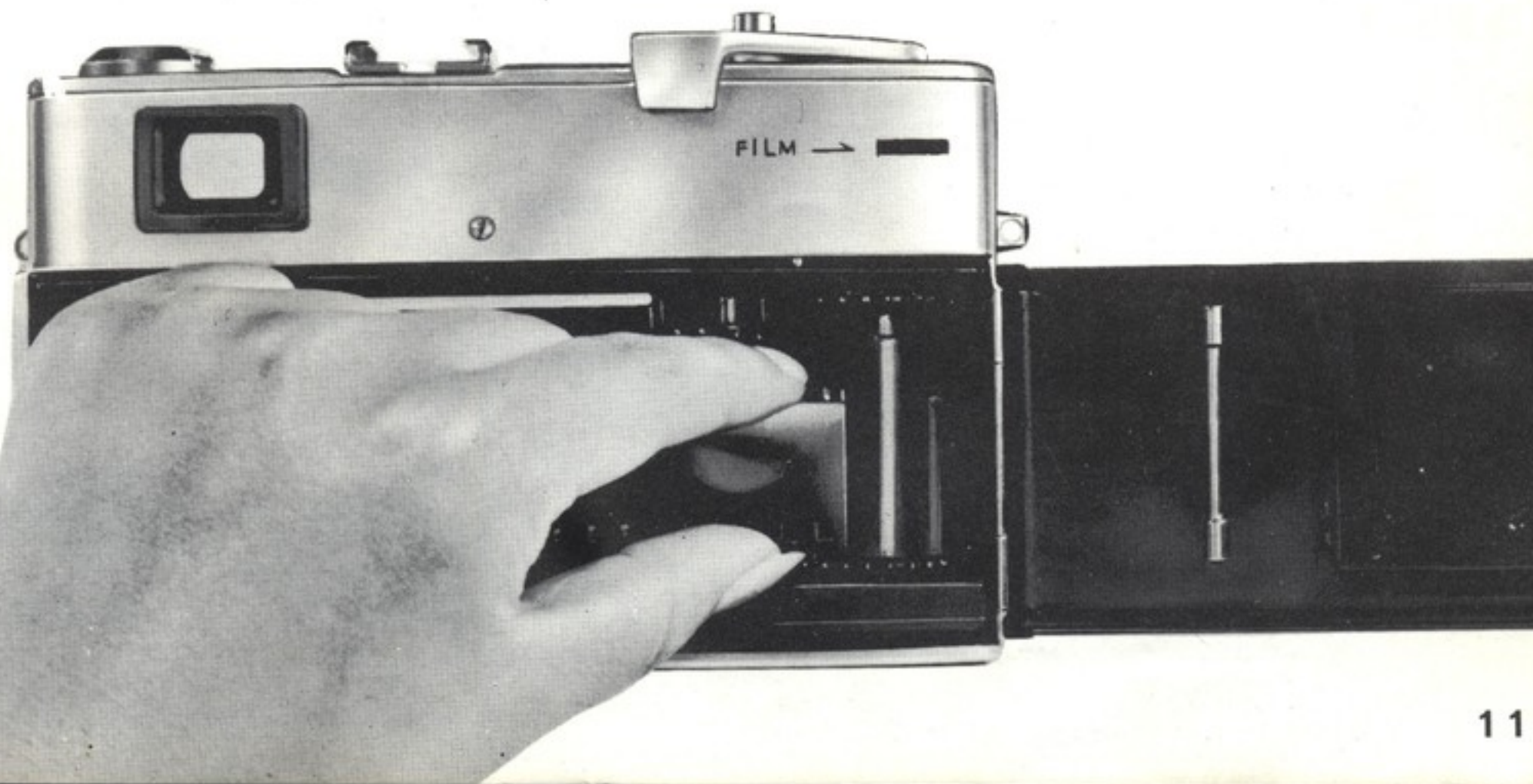


- 1 裏蓋開閉爪を引くと、裏蓋は自動的に開きます



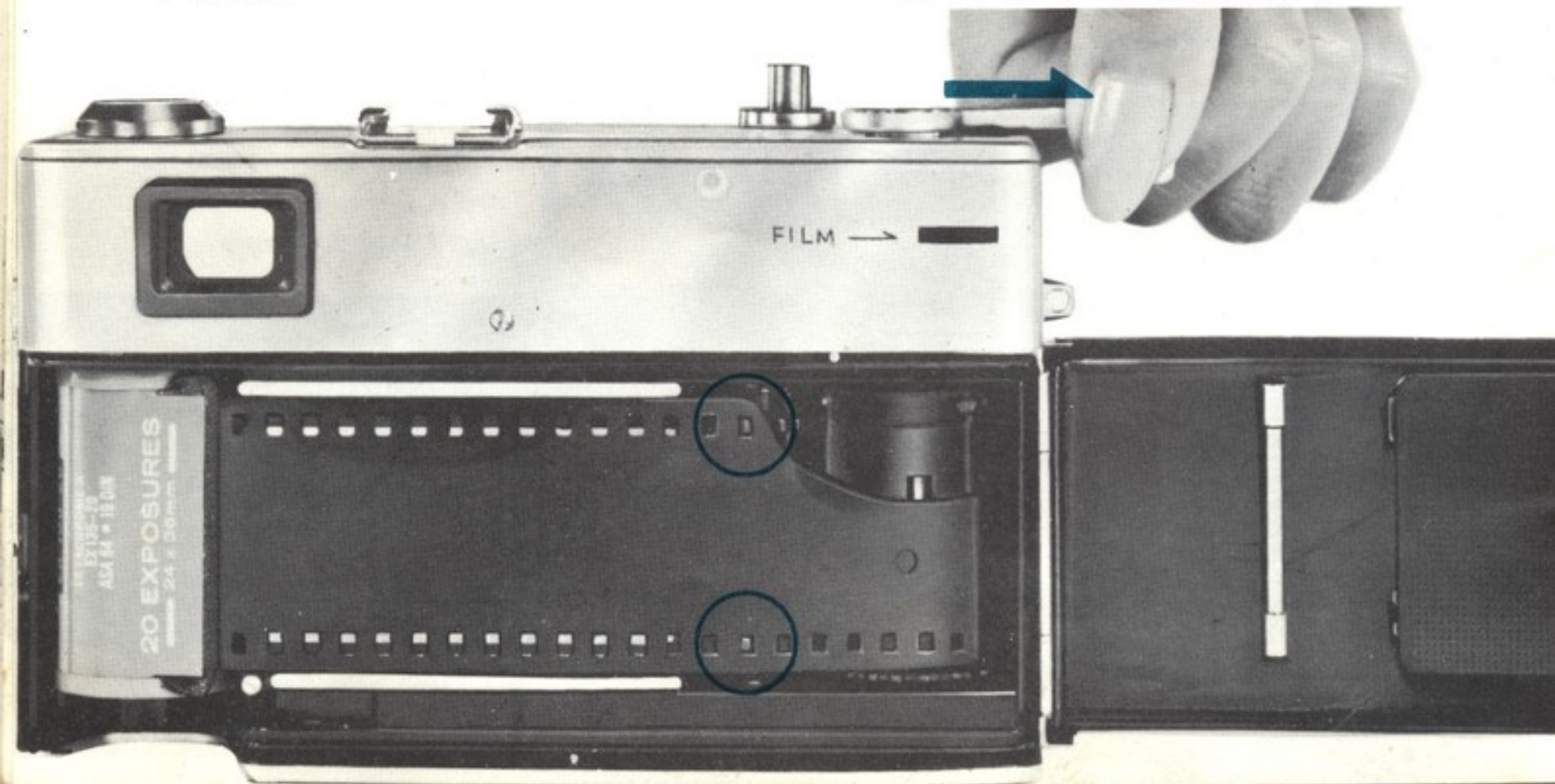
- 2** パトローネをフィルム室に入れます
(パトローネのフィルム軸がパトローネ受軸に引掛かったときは、巻戻しクランクを左右いずれかに回すと、うまく入ります)

- 3** フィルムの先端を3～4コマ穴分スプールの溝に差込み、溝の爪に引掛けます



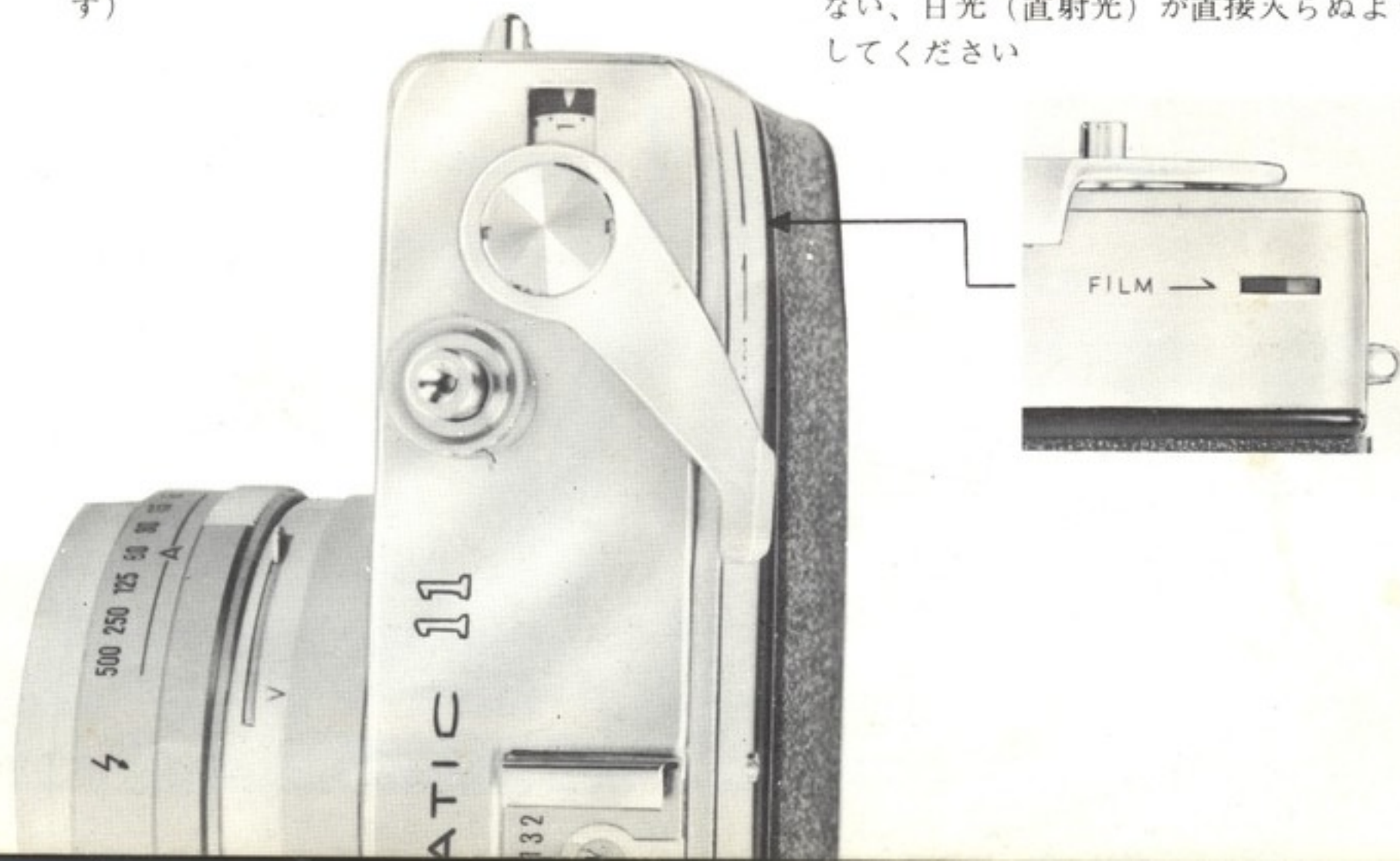
4 フィルムの送り穴をスプロケットの歯にかませ、スプロケットを軽く押さえながら巻上げレバーで徐々にフィルムを巻上げ、両側の送り穴をスプロケットの歯にかませます

5 裏蓋を閉じるとフィルムカウンター窓にスタートマークがでます。そのあと巻上げレバーがとまるまで回してシャッターボタンを押す。この操作を繰り返してフィルムカウンターに①を出します



6 フィルムカウンターに①がでたとき、フィルム送り確認窓に赤マークがでていたら、フィルムが確実に送られていることを示します（マークは窓の右半分に出ます）

- フィルムを入れるとき、必ずフィルムの両側の穴をスプロケットの歯にかませてください
- フィルムの出し入れは、必ず日陰等でおこない、日光（直射光）が直接入らぬようにしてください



撮影の方法 ●

まずフィルム感度を合わせます

フィルム感度セットレバーを押して、使用フィルムの感度に合わせます

フィルム感度目盛は、ASA・DINが下記のように表示されています

500 ··· 200 ·· 100 ·· 50 ·· 25 ASA

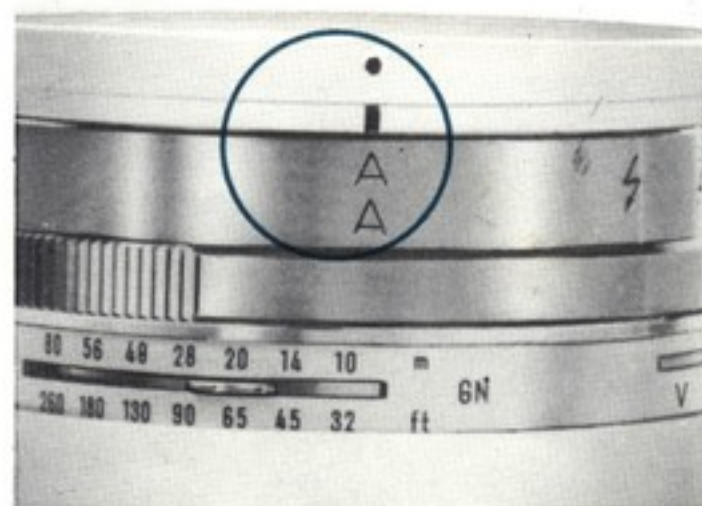
28 24 21 18 15 DIN

ASA 200～25の目盛の間は3等分になっていて、クリックストップになっています

(I) プログラムEEのとき

プログラムEEではシャッターボタンを押すだけで被写体に適した絞りとシャッター速度の組合わせが自動的にえられますので、経験やカンが全くいらず、初心者でも気軽に写せます

1 スリーサーキットリングを回し、AAマークを指標に合わせるだけでよいのです



EE警告マークの見方

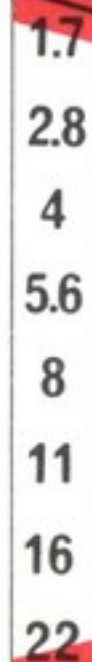
ファインダーをのぞくと光像枠（ブライトフレーム）に図のような指針が見えます

この指針が上・下の赤い警告マークに入っていないときは、いつでもEE機構が働らき、適正露出を与えます

もし、指針が赤マークに入ったときはEE機構が働かず、適正露出を与えないことを示しているのです。指針が上の赤マークに入ったときは露出不足ですので、フラッシュなどの補助光を用いるかしてください。また、この指針はEE撮影時の絞り値も指示します



露出不適正



フラッシュ撮影（P-17、18で説明）時ファインダー内の指針が⚡マークにあることを確認しましょう

(II) 速度選択EEのとき

シャッター速度を自分で選びテクニック（動感を強調したり、被写界深度の利用など）を活用したいときこの方法のEE撮影をおすすめします

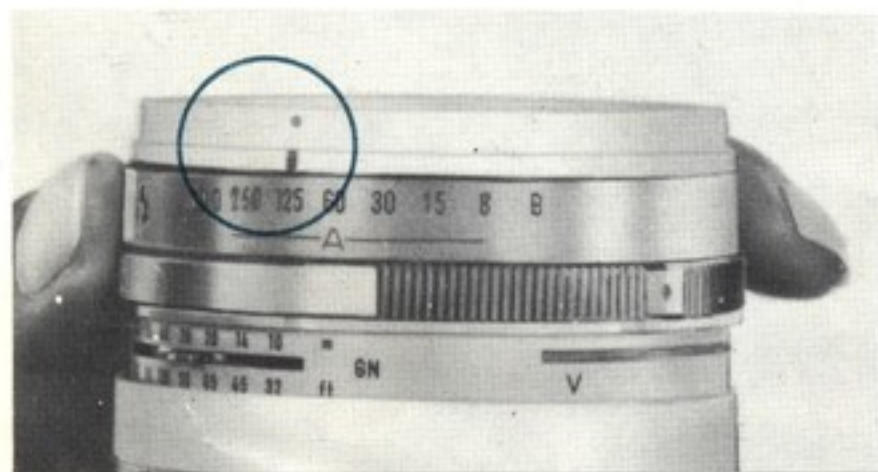
- 1 スリーサーキットリングを回し、希望するシャッター速度を指標に合わせます
（ファインダー右下でシャッター速度を確認することもできます。また選択したシャッター速度に対応する絞り値がフ

ァインダー内に表示されますので、絞りを優先してシャッター速度を決めることもできます)

- 2 ファインダーをのぞき、EE警告マークに指針が入っていないか確かめます

〈注意〉

- ☆シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 以下のときは三脚を使用するなどカメラブレにご注意ください
- ☆速度を選ぶとき必ず各目盛のクリック位置でおこなってください。中間は使用できません
- シャッター速度のBはバルブ露出のことでシャッターボタンを押している間シャッターの羽根が開いていますので長時間露出のときご利用ください。この場合必ず三脚を使用してください

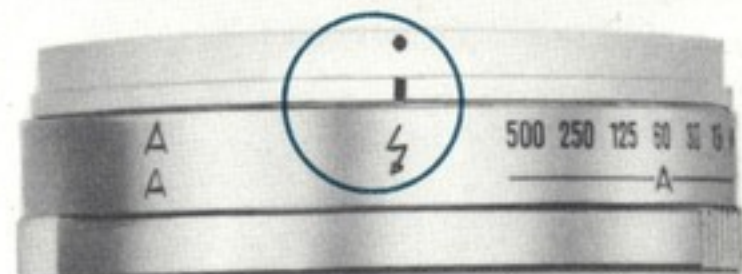


(Ⅲ) フラッシュ撮影のとき

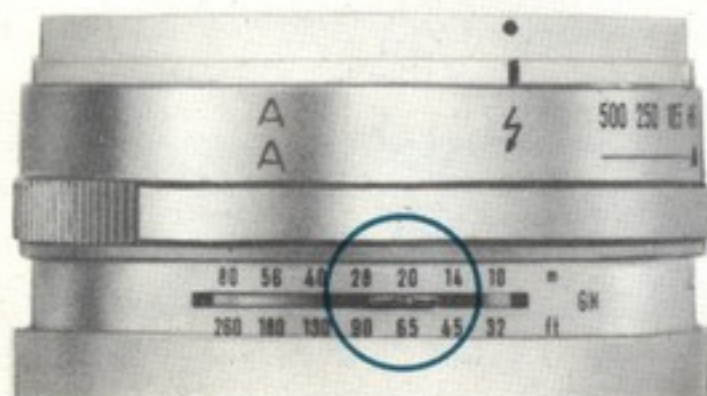
F・M(フラッシュマチック)機構を採用していますので、フラッシュ撮影がいつも簡単にできます

1 フラッシュガンを取付けます
ノンコード兼用型(ミノルタフラッシュガンデラックスⅢなど)ではガンを取付けるだけでよいのです。その他の発光器ではコードをカメラのシンクローターミナルに接続します

2 スリーサーキットリングの⚡マークを指標に合わせます



3 発光器または閃光球のガイドナンバーを
セットします



4 ピントを合わせます (P-23参照)
このとき、フラッシュマチックが働き、ピント
合わせに連動して、自動的に適正な絞り値
にセットされます

このFM連動(フラッシュマチック)はファイン
ダー内にも表示されます(近距離のみ)。撮
影時FM連動マークに指針が入っていればよ
いわけです。但し、遠距離(8 m以上)はファ
インダー表示がないので数メートル以上離れ
て撮影するときはピントを合わせたとき距離
目盛を確認してください

各ガイドナンバーにおけるFM連動範囲

GN (m)	撮影距離 (m)	GN (ft)	撮影距離 (ft)
10	0.9 ~ 5.8	32	3.0 ~ 19
14	0.9 ~ 8	45	3.0 ~ 26
20	0.9 ~ 8	65	3.0 ~ 26
28	1.2 ~ 8	90	4.0 ~ 26
40	1.5 ~ 8	130	5.0 ~ 26
56	2.0 ~ 8	180	6.6 ~ 26
80	3.0 ~ 8	260	10.0 ~ 26

数メートル以上離れて撮影するときは撮影前距離目盛を確認してください(8 m以内であればフラッシュマチック



カメラの構え方●

写真のじょうず、へたはカメラの構え方にも原因します。不安定なかつこうで構えますとカメラが動きせつかくの写真がブレて、だい無しになってしまいます

横位置に構えるとき

横位置での撮影は、両手でカメラを保持できますから、いちばん安定した方法です。カメラが動かぬように両肘を身体につけ、静かにシャッターボタンを押します

ファインダーをのぞくとき、右の目のぞく方が連続撮影のとき、巻上げレバーが顔に当らず便利です





縦位置に構えるとき

縦位置での撮影は、シャッターボタンを親指で押すときと、人差し指で押すときの二方法があります。あなたの扱いやすい方法をお選びください



ファインダーの見方

ファインダーをのぞくと、明るい光の枠が見えます。これをブライトフレームといい、この範囲内に見えるものが実際に写るわけです。このブライトフレームは、距離計のピント合わせにしたがって動き、つねにパララックスを自動的に補正して、正しい視野を示します。

したがって、この枠で構図をきめると、頭が切れたり、足が切れたりするような失敗はありません。

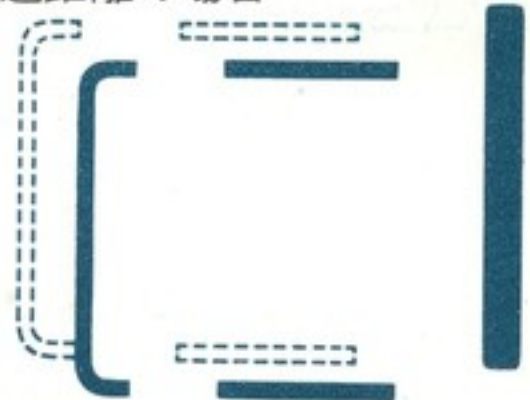
またファインダー右下部よりシャッター速度(速度選択E.E.のとき)の直読もできるので大変便利です。



パララック自動補正説明図
遠距離の場合



近距離の場合



ピントの合わせ方●

ファインダー接眼部の中央に目を当ててのぞきます

ピント合わせは焦点調節レバーを回しながらファインダーの中央に見えるダイヤ形の二重像を合わせます

ピントが合っていないとき

写真のように中央の枠のなかで写そうとするものの像が二重にずれて見えるときは、ピントが合っていないのです

ピントがあったとき

写真のように、写そうとするものが中央の枠のなかで一つに重なって見えれば、ピントが合っています（このときのカメラの距離目盛が被写体までの距離を示します）

ピントが合っていないとき



ピントが合ったとき



被写界深度について●

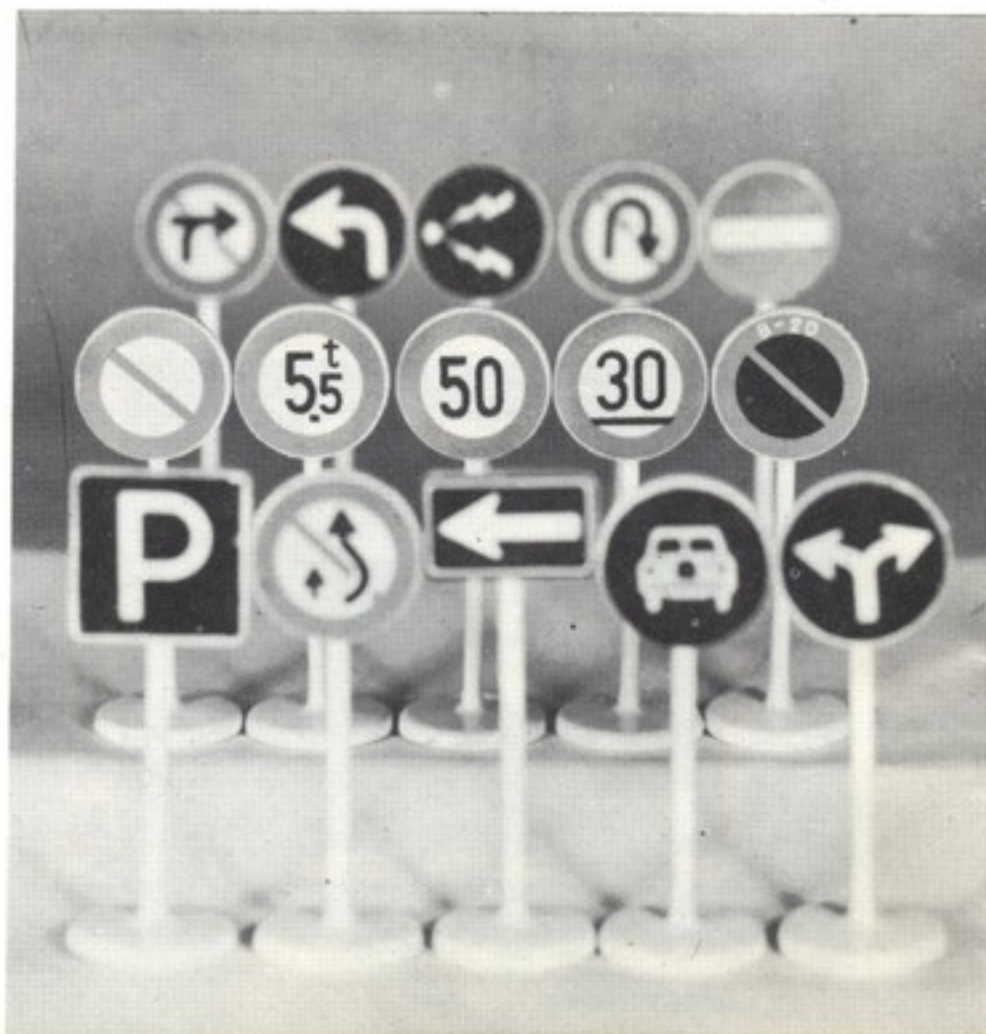
レンズは、ある一点のものに正確にピントを合わせても、その前後には、いくらかピントが合っている範囲の奥行きがあります。このピントの合っている奥行きを被写界深度といいます

この深度は、レンズの口径を小さくする（絞りを絞る）ほど深くなり、逆に口径が大きくなる（絞りを開く）ほど浅くなります

このカメラはE E撮影時の絞り値をファインダー内右側の指針が示します。この絞り値はシャッター速度をかえると変化しますので深度表を活用したいときはシャッター速度によって適正な絞り値を決めてください



絞りを開いたとき





絞りを絞ったとき



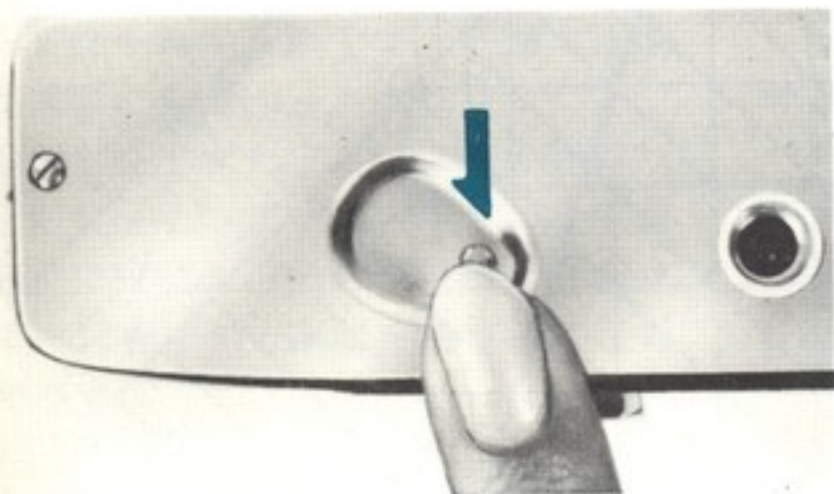
被写界深度表

絞り (F) 距離 m	1.7	2.8	4	5.6	8	11	16	22
∞	∞	∞	∞	∞	∞	∞	∞	∞
8	36.0	21.7	15.3	10.8	7.7	5.4	3.9	2.7
8	10.2	12.6	16.6	29.8	∞	∞	∞	∞
	6.6	5.9	5.3	4.6	3.9	3.3	2.6	2.1
3	3.26	3.46	3.70	4.09	4.83	6.47	12.5	∞
	2.78	2.65	2.53	2.37	2.18	1.96	1.7	1.5
2	2.11	2.19	2.28	2.42	2.66	3.08	3.97	6.78
	1.90	1.84	1.78	1.70	1.61	1.49	1.35	1.19
1.5	1.56	1.60	1.65	1.72	1.83	2.02	2.36	3.11
	1.44	1.41	1.38	1.33	1.27	1.20	1.11	1.00
1.2	1.24	1.26	1.29	1.33	1.40	1.50	1.68	2.02
	1.17	1.14	1.12	1.09	1.05	1.00	0.94	0.86
1	1.03	1.04	1.06	1.09	1.13	1.20	1.30	1.49
	0.98	0.96	0.95	0.93	0.90	0.86	0.81	0.76
0.9	0.92	0.93	0.95	0.97	1.00	1.05	1.13	1.27
	0.88	0.87	0.86	0.84	0.82	0.79	0.75	0.70

各欄の数字は上方が後方深度、下方が前方深度

フィルムの取り出し ●

1 カメラの底部にある巻戻しボタンを押し込みます（このボタンは指を離しても押込まれた状態でとまります。もし指を離したとき、ボタンがもとどおりでてくる場合は、指で押したまま少し巻もどし、ボタンから手を離してフィルムを十分巻上げ、もう一度巻戻しボタンを押すと、押込まれた状態のままになります）



2 巻戻しクランクを起こして、矢印の方向にまわしますと、フィルムはもとのパトローネのなかへ巻戻されていきます（このとき、フィルム送り確認窓を利用すると巻戻し完了の確認ができます。フィルムがなくなると、フィルム送り確認窓の赤マークが消えますが、さらに1～2回、巻戻しクランクをまわしてください）

3 巻戻しが終わったら、（クランクをまわしているとき抵抗感がなくなる）裏蓋を開いて、パトローネをとり出します

注意 ★フィルムを巻戻すとき、フィルム送り確認窓の赤マークが消えたときすぐ裏蓋をあけないようにご注意ください

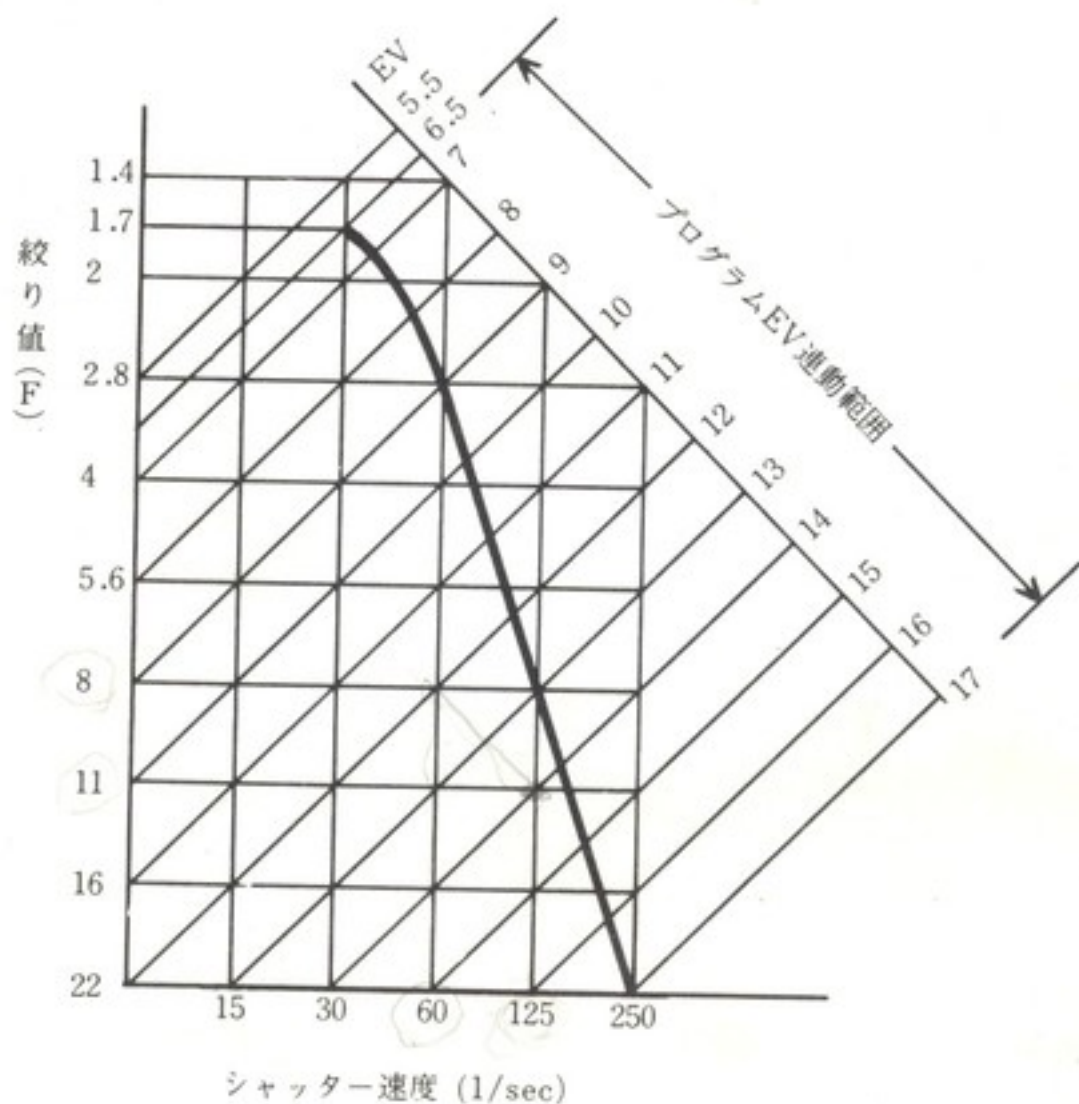


プログラムシャッターと速度優先EE ●

プログラムシャッターとは、被写体の明るさに応じて、あらかじめ決められた最適なシャッター速度と絞りの組み合わせによるシャッターをいいます

このプログラムシャッターの作動範囲は、EV 6.5~17で、各EV値のシャッター速度と絞りの関係は右の図のとおりです

プログラムEEにするとこの図に示される範囲内でシャッター速度と絞りの組み合わせが自動的にコントロールされます。ですから初心者とか露出を決めることがわずらわしい方はこの方法をおすすめします



カメラの保存と手入れ●

速度優先のE E

先程のプログラム方式ですとシャッター速度や絞りの組合わせをカメラがコントロールするので自分でシャッター速度や絞りを決めることができません。その点シャッター速度優先式E Eでは自分の希望する速度を決めると絞りは自動的にカメラがコントロールする訳です。(例えば動物撮影に $\frac{1}{500}$ をセットするなど)

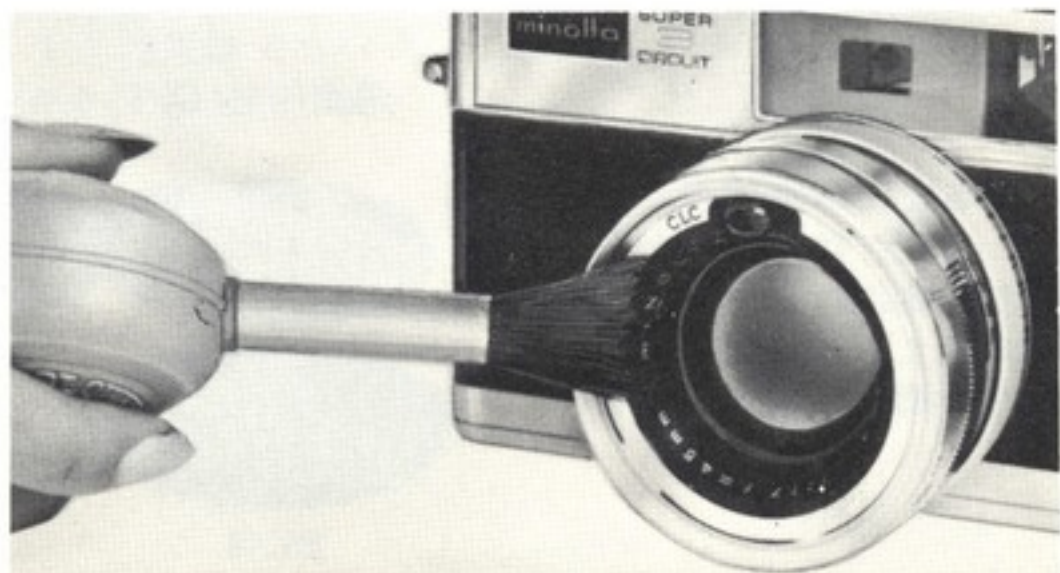
しかもハイマチックではその際絞り値もファインダーに表示されますから逆に絞りを自分の希望値に合わせて、シャッター速度を決めることもできます

使ったあとは……

- レンズに手を触れないようご注意ください。もし誤って汚した場合、清けつな木綿の布で、軽く拭きとってください
- 金属カバー面が余り汚れたときは、布に少しベンジンをつけて拭くときれいになります

使わないときは……

- 1ヶ月以上、お使いにならないときは、水銀電池を取出しておきましょう
- カメラを長持ちさせるには・高温・湿気や多量の塩分を含む薬品のある場所はさけてください
- カメラを乾燥剤(シリカゲルなど)といっしょに缶のなかにしまっておくと安全です



撮影の範囲をより広げるアクセサリー ●

●フィルター（ねじ径55mm）
（各フィルターに露出倍数を記していますがハイマチック-11の場合フィルターを通過した光量を測るので露出倍数を考慮する必要がありません）

露出倍数D=デイライト（自然光）

T=タングステン（人工光）を示す

UV（7055-100）
紫外線を吸収するので海辺、高山などの撮影にご利用ください。また、露出倍数がかわらず、レンズの保護にも役立ちます（露出倍数1）

GO（7255-114, 緑色フィルター）
赤色系がフィルムに感じ過ぎて、極端に白っぽく表現されるのを防ぎ、人物の顔などを適当な明るさに表現します。また、新緑など緑色系を明るく、自然に近い感じに表現したいとき効果的です（露出倍数 D, T, 1.5）

Y-48（7155-100, 黄フィルター）
白黒フィルムで撮影するとき海辺や雲のある風景などの撮影で、青味をおさえますから白雲を強調したいときには効果的です（露出倍数D 1.5, T 1.2）

R-59（7255-113, 赤色フィルター）
昼間の感じを夜景に近いかたちに表現したいときや、コントラストを極度に強調したいときに最適です
また、赤外撮影に必須のフィルターです（露出倍数D 6, T 4）

商品名または価格のところの（ ）に、数字で表わしているのは商品の種別を示すコードNo.です。ご注文の時コードNo.と一緒にご指名願います



Y-48



GO



UV



O-54

0-54 (7255-114, 橙色フィルター)

青色系統の色をかなり暗く表現して、黄か赤系の色合いを肉眼で感じる以上に明るく表現します。また、コントラストを強調したい遠景撮影にはいちだんと効果的です
(露出倍数 D 2, T 1.5)

1A (7255-116, カラー用)
紫外線をよく吸収するので、青天・戸外・海辺・高山などのカラー撮影に青味をおさえます (露出倍数 1)

85 (7255-115, カラー用)
電灯光用カラーフィルムを昼光 (太陽光) 下で撮影するときに用いる色温度変換フィルターです (露出倍数 2)

80B (7255-105, カラー用)
昼光用カラーフィルムを使って電灯光下で撮影するときに用いる色温度変換フィルターです (露出倍数 2)

フィルター 各 ¥ 1,200

● **フード (6151-417)**
逆光やフラッシュ撮影のときレンズの写角外から入る有害な光線をカットして、美しい写真をつくります ¥ 800



R-59



85



1A

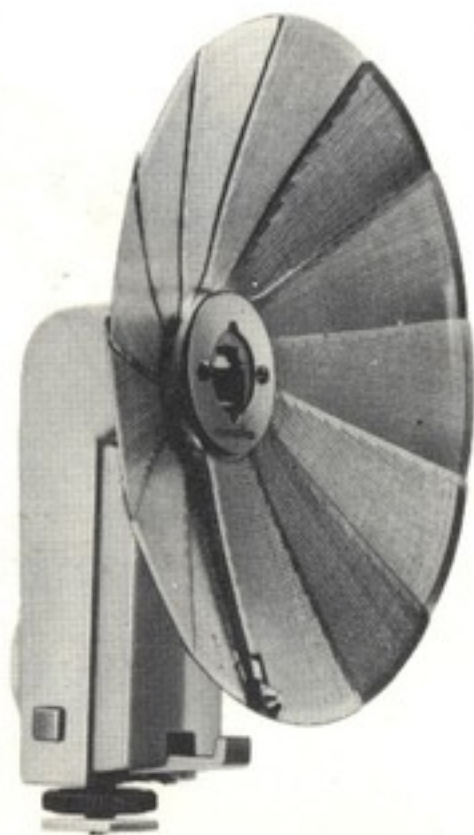


80B

●フラッシュガンデラックスⅢ (8626-007)

夜間や暗いところでの撮影に、デラックスガンをお使いください。美しい写真が写せます。デラックスガンは、照射角度が自由に調節でき、3種の閃光球が使用できます。またノンコード式ですがコード式のカメラにも使用できます

¥ 1,900



●エレクトロフラッシュ (8627-007)

洗練されたデザインで、コンパクトにまとめられた高性能エレクトロフラッシュ (ストロボ) です。夜間や暗いところでも撮影にご利用ください

本体 ¥ 7,900

ケース ¥ 300



●ディオフィットSフラッシュガン

(8625-007)

このディオフィットSはAGタイプ専用につくられた近代感覚にマッチしたデザインの超小型フラッシュガンで、ノンコード式、コード式いずれにも使用できます ￥1,000



●視度調節アタッチメント

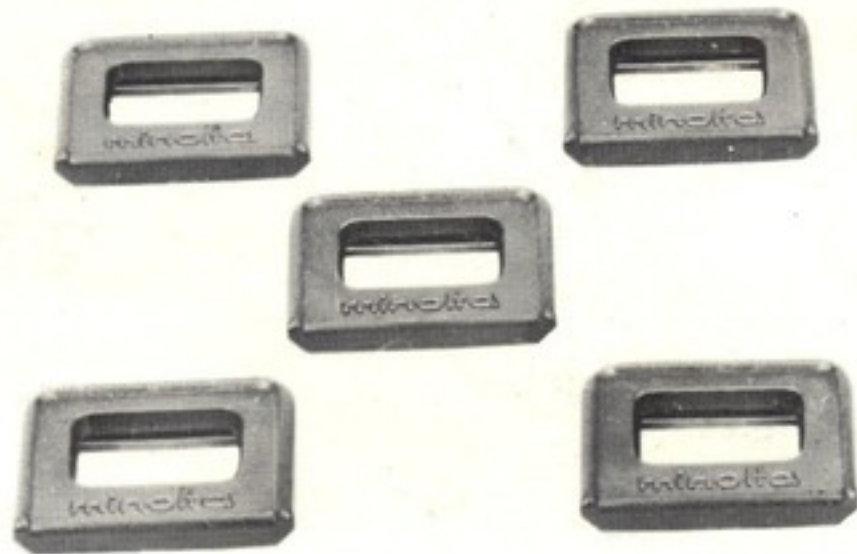
遠視用 (No. 1 ~ No. 5)

近視用 (No. 6 ~ No. 9)

ハイマチック-11のファインダーは明るく見やすいのですが遠視、近視の方には視度調整アタッチメントをカメラの接眼部につけますと、より正確な焦点調整ができます

No. 1 ~ No. 9 各 ￥350

(8215-100 ~ 8215-900)



Minolta

ミノルタカメラ株式会社

☎542 大阪市南区塩町通4-18 (06) 271-8671

☎105 東京都港区芝浜松町3-5 (03) 435-5511

(世界貿易センタービル)